

授業科目名	医療者プロフェッショナリズム (Medical Professionalism)		
対象学年	医学科 1 年生	単位数	2 単位
科目責任者	まつした たけひこ 松下 毅彦	所属	医学教育センター (内線 6864)
		メール	tmatsushita@hiroshima-u.ac.jp
科目 コーディネーター	まつした たけひこ 松下 毅彦	所属	医学教育センター (内線 6864)
		メール	tmatsushita@hiroshima-u.ac.jp
授業方法	<p>本科目は、90分の講義コマ2コマを続け1回の時間を180分として行う。最初のオリエンテーションを除き、すべてをグループワーク形式で行う。用いるグループワークの手法は以下の通りである。</p> <p>1) S E A (Significant Event Analysis) グループのメンバーが各々、自分の体験 (イベント) を発表し、グループで話し合うイベントを1つ決める。グループ討議では、そのイベントについて、描写、その時の感情を踏まえ、よりよく行う方法があったかどうかを振り返って考える。</p> <p>2) ワークショップ 与えられたテーマについてグループごとに討論し、グループとしての考えを成果 (プロダクト) としてまとめ、模造紙上に発表資料を作って発表する。</p> <p>3) T B L (Team-based Learning) 冒頭で事前資料の内容について小テスト (個人単位、グループ単位) を行う。グループワークでは、与えられたテーマについてグループの考えをまとめる。討論における積極性の評価は学生同士で行う (ピア評価)。</p> <p>4) K J 法 3連の文殊カードを回して、テーマに指定されたことについて自分が考えたことを1項目ずつ記入する。すべて集めたところで切り離し、内容ごとにグループ分けをする (島をつくる) 中で相互の関係を検討する。模造紙上に発表資料を作成し、グループごとに発表する。</p> <p>各グループワークの前には原則として事前学習課題を出すので、学生は事前にそれを読んだ上で授業に参加する。</p>		
概要	<p>プロフェッショナリズムとは、医師としての価値観、理想、責任感、使命感および、それらを自らの行動にどう体现するかの方法論が統合されたものである。本科目ではプロフェッショナリズムを以下のように定義する。</p> <p>1) 他者に対するプロフェッショナリズム 相手の立場にたった良好なコミュニケーションをとれる 患者、家族などに対して誠意と思いやりをもって配慮ができる 同僚に対して敬意と親愛をもって接し、協働できる</p> <p>2) 自分に対するプロフェッショナリズム 常に学習し自らを向上させる姿勢をもつ 自分の限界をわきまえ、他者からの助言を自分の糧にできる</p> <p>3) 社会に対するプロフェッショナリズム 社会から期待されている役割を果たす 医師としての社会的責任を果たす 社会のルールを守り、医療資源を適切に使用する プロフェッショナリズムは医師が備えるべき基本的資質・能力として欠くことのできない重要なものであり、6年間の在学中を通じて確実に身につける必要がある。本科目では、6年間の教育の最初の一歩として、プロフェッショナリズムとは何かをグループ討議の中で考え、自分なりの基本的な考えを確立することを目標とする。 また、グループワークを行うことで、他者との協働に慣れ、協働のなかで学習する習慣を身につけることも目指す。</p>		
到達目標	<p>患者の心理、患者の願いを説明できる。 患者の問題を解決するために医師に期待されている役割を説明できる。 医師の専門性と社会における役割を説明できる。 自らの判断・意志で継続的学習を行うことができる。 グループで協働して作業を進め、学習し、グループのために役割を果たすことができる。 T B L、ワークショップ、K J 法、S E A などの基本的技法を修得し、効果的にグループワークを進めることができる。</p>		

講義日程	第1ターム火曜日5～8限 2コマを続けたグループワークを計8回行う
出席の取り扱い	各日のグループワークごとに学生を評価する（点数をつける）ので、病欠等の正当な理由なく欠席した場合は、当該日の点数は0点となる。
評価項目	各グループワークでのピア評価、プロダクトに対するグループ評価、TBLの際の事前テスト（個人、グループ）の成績を総合して評価する。
評価法	総合得点60点以上をもって単位を認定する。
推奨参考書	【購入を推奨する参考書】 特になし